

【にんげん部門（中学生の部）・最優秀賞】

大谷（親鸞聖人）からあなたが願われていること

大谷中学校 3年 今井 皐

私は、周りに助けられているだけではなく自分も誰かを助けるということを願われていると思う。そう思ったのは、自分がそう考えたような体験をしたからだ。

私は、夏休み中に部活に行った帰りに熱中症になったことがある。その日は暑かったので日傘をさしていたし、お茶もこまめに飲んでいたので、自分が熱中症になるなんて夢にも思っていなかった。しかし、バスに乗っていた時から吐き気がし、自分の最寄りのバス停で降りてすぐに道にしゃがみこんでしまった。すると同じバスに乗っていた女性が私に声をかけ、日陰までつれていってくれた。それだけでも十分助かったのだが、近くの自動販売機でスポーツドリンクを買ってきてくれ、また違う女性は、私を家まで車で送ってくれた。

家に帰って兄にこのことを話すと、兄も過去に自転車で出かけていて熱中症になったことがあったらしく、その話をしてくれた。兄のときは兄が倒れていても通る人は誰一人として声をかけてくれなかったらしい。まあそれが普通なのだろう。私ももし道でしんどそうにしている人がいても声をかけられないかもしれない。しかし、あの女性は私のことを助けてくれた。そのことに私は感動した。

このようなことだけでなく、友人間、家族間でも誰かを助ける、ということはできると思う。例えば、友人が困っている時に声をかけ手伝う、母親の家事を自ら手伝う、そういうことも誰かを助けるということの一步だ。そのような小さなことでも良いから、誰かを助けるということをしていきたいと思った。

このような実際の自分の体験やそこから感じたことから、誰かを助けるということを大谷から願われていると思った。私も、私を助けてくれた女性のように、誰かを助けられるような人間になりたいと強く思った。